



# 松代キャンパスで農大祭

11月14日、松代キャンパスで「農大祭」が開かれました。この春、小諸・松代キャンパスが統合されたこともあって、1、2年生合同の第一回目の「お祭り」です。好天にも恵まれ、昨年を400人も上回る1300人以上のお客様が来校され、野菜、作物、果樹と準備した農産物が閉会時間の30分前に完売してしまうというハプニングもありました。

恒例の餅つきに加え、綿がしコーナーや学生手づくりの牛の着ぐるみも子どもたちに好評で、秋の最大のイベントは大盛況の下、幕を閉じました。

## 楽しい農業経営を



農業大学校総合農学科後援会長  
松澤 利彦

日本経済は米国発の金融危機発生に端を発する世界的な景気悪化を受け、国内不況による景気後退により産業界のみならず農業分野にも影響を及ぼしております。先行きの不透明感はまだ払拭されず、わが国の食料・農業・農村をめぐる情勢は、食料自給率の低下や農業所得の激減、国際化の進展など、かつてないほど大きく変化しております。

また食料自給率の低下や国際的に飼料・肥料をはじめ燃料等の価格高騰、WTO農業交渉、そして、FTA・EPA交渉等の問題がありますが、新たにTPP（環太平洋連携協定）貿易自由化に参加をすれば、国内の農業は崩壊します。

これからは生きる農業経営をしていかなければなりません。それには、若い人たちが農大で学んだ能力を活かし、新しい農業経営を考え、楽しく素晴らしい人生をおくってください。期待しております。

## 二年生マーケティング視察

二年生は十二月十四日から十六日まで、農産物マーケティング論の視察研修で東京の大田市場、そして、手作りのハムやソーセージを加工・直売する「サイボクハム」（埼玉県日高市）を訪れました。また、日本橋では三越本店、銀座では全国各地のアンテナショップの見学を行いました。



「リンゴのふじは一個1,000円、イチゴの「あまおう」が一粒500円でちゃんと売れます」企画を手がけるバイヤーの説明を聞き、「どうすれば消費者ハートをつかめるのですか」と学生からは鋭い質問が集中し、有意義な研修となりました。



## 一年弁論大会

一月十四日、二二年生合同の弁論大会が開かれ、一年生は北原浩樹君、二年生は小林竜也君が優勝しました。なお、優秀者が決まる厳正な審査時間も無駄にはしません。信州ファーム荻原の農場長、荻原昌真さんに「若者だからできる農業」と題して、無農薬米づくりの技術開発、携帯ゲームを利用した都会の人々への農業啓発等、夢溢れる話をされ、農大生も同じ若者だけに共感していました。



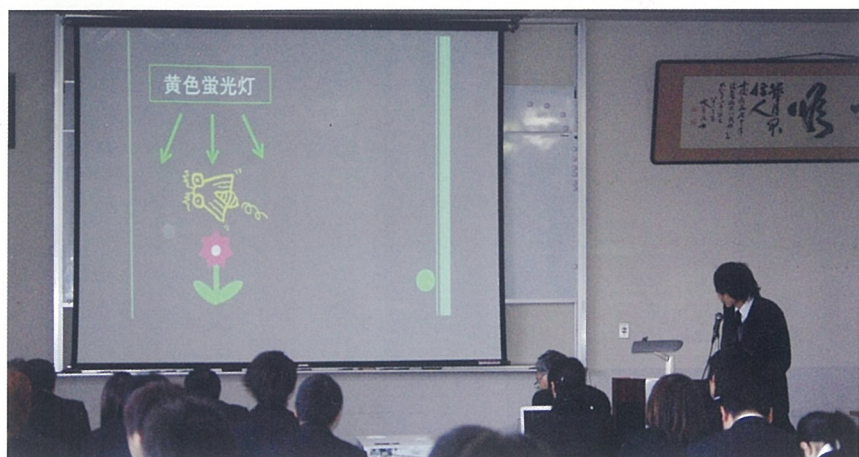
## 調理学実習テーブルマナー

皆おめかしして何かの式典？いいえ。これはちゃんと「授業」なのです。寺島恵子先生が担当される調理学は座学と実際に料理を作る実習がセットになっていますが、最後に総仕上げとして、「ホテル」でテーブルマナーの練習もします。「そのフォークの置き方はフランス式、英国式はこうなります」「バターナイフの使い方をやってみましょう」「肉料理のフォークは押して切ります」知っているようで意外に知らない食事の作法。学生たちは緊張した面持ちで授業を受けていました。



## 二年生プロジェクト発表会〜各コースの学びの総仕上げ

十二月八日、九日、松代キャンパスにおいて二年生四十七名の「プロジェクト発表会」が開催されました。農家体験実習でお世話になった農家の抱える問題を解決するため農作物の品質向上や病害虫の防除等、具体的な課題解決を意識したプロジェクト発表が目立ちました。クジャクソウの彼岸前出荷に取り組んだ窪田政行君が最優秀賞に選ばれ、LED色での菊の成育・開花を調べた古田翔太郎君、キユウ



リの生育や収量の品種差による違いを比較した阿部哲也君、LEDを用いた防蛾機（レピガード）のオオタバコガの防除効果に取組んだ小松実加代さんが優良賞に選ばれました。なお、窪田、古田、阿部君の三名は二月二十一日に大宮で開催された「関東ブロックプロジェクト発表会」に参加しました。

## 若人の集いで発表

二月八日塩尻市レザンホールで開催された「明日の長野県農業を担う若人のつどい」ではプロジェクト発表の部に小松実加代さん、意見発表の部では伊藤彩香さんが意見を述べました。

## スキー教室

平成23年2月22日、23日は、2年生は志賀高原スキー場で、最後の授業に参加しました。素晴らしい好天に恵まれ、インストラクターの指導を受けスノーボード等を楽しみました。内定した企業の研修が始まる学生もいて、2年寝食を共にした仲間たちとの最後の夜となりました。この友情が卒業後もなぜかずっと続いていくのが、「農大寮生活」の持つ不可思議な力なのです。



## 教授登場

### 西村輝雄先生



「日頃から色々なものに興味を持っていると、あらゆるものがつながっていることがわかります。探究心を持つことの大切さを授業で学生たちに伝えたいと思っています」

生物の細胞組織を顕微鏡で観察したり、雌の卵子だけを使って雌マウスを誕生させた研究(単為発生)のビデオを見て議論する。

「へえ、そうだったんだ。知らなかったなあ」と学生たちが口にする人気授業のひとつです。

二月十六日に二年生は、西村先生の生物学演習で「かんでんば」で有名な伊那食品工業と水産試験場を訪れました。

伊那食品では厳しい社会環境の中で企業として生き延びるには、自分たちが会社を支えていると二人ひとりの従業員が感じて研鑽に励むこと等、社会人としての心がまえを聞き、水産試験場では信州サーモンを開発するための技術的な苦労の話を伺いました。



## 就職セミナー



学生の進路支援の環として就職コースと就職コースに分け、特別教養演習という選択科目を設けています。このうち、就職コースでは企業の採用活動に合わせ、一年生の後期から授業を始めています。外部の専門講師より、企業が求める人物像とは何か、学生自身がどのような職業に興味・関心・適性があるのかを自己分析する仕方、面接や履歴書で、自分をPRする上で基本となる自身の長所などを具体的に表現する方法、履歴書の書き方、面接の受け方、さらには、SPI等の筆記試験対策など実践的な内容の講義や演習を受けています。合同企業ガイダンスへの参加もこの授業の一部で、同年代の他校の学生の活動ぶりを目の当りにできたり、また、企業の人事担当者から発せられる情報は、文字や画像以上のインパクトを学生に与えてくれるよい機会にもなります。

就職環境が厳しい中、希望する進路実現に向け、一日でも早く、学生の就職活動スイッチがオンとなることを期待しています。

## 平成22年度総合農学科卒業生の進路状況

※2011.3.1現在

- 就農:2名** …………… 自 営【1】  
農 業 法 人【1】(農)三ツ和農産
- 就職:25名** …… 公 務 員【1】長野県  
農 業 協 同 組 合【9】信州諏訪、みなみ信州(3)、木曾、塩尻市、大北、中野市、ながの  
農 業 団 体【1】東北信酪農ヘルパー利用組合  
農 業 関 連 企 業【11】赤羽産業(株)、(株)甲信クボタ(2)、(有)小町園、(株)コメリ、(有)佐久協同、  
(株)大地、(株)トマツ本店、(株)パイオグリーン、東日本三菱農機販売(株)、  
ヤンマー農機販売(株)  
そ の 他 企 業【3】白馬三洋加工紙(株)、NPO法人レスパイトケアはちもり、信州松代ロイヤルホテル
- 進学:9名** …………… 本校専門技術科(5)、本校野菜花き研究科、信州大学農学部(編入2)、東京農業大学生物産業学部(編入)

